

杉並区の教育の基本的な考え **みんなのしあわせを創る杉並の教育**

「みんなが共に教育を創る」⇨子どもも大人も全ての人が**教育の当事者**

共に尊重し大切にしたいこと

○学び合い、信頼をつくり、共に生きる○ちがいを認め合い、自分らしく生きる○誰もが社会の創り手として生きる

学び合い

教え合い

かかわり合う

学校の教育目標

やさしくなる

しあわせになる

子どもは、学校や家庭、地域の中で育っていき、人との出会いやかかわり、さまざまな体験や学びとともに、かけがえのない自分として成長していく。それらを踏まえ、「自分」と「他者」、「学校(地域)」を大切に**「やさしさ」**をモットーに心も身体も**「しあわせ」**を希求する学校をめざす。

経営目標 **未来の自分に誇れる自分になる 未来の杉二小に誇れる杉二小を創る**

- 目指す学校像
- ◆児童が学ぶ楽しさや人とかかわる喜びが得られる学校
  - ◆地域・保護者が学校と相互にパートナーとなり児童を育てる学校
  - ◆教職員が学びを支援する伴走者として日々成長できる学校

☆自分を大切にする

**自分を啓き、生涯自立した学習者をめざす。**

- 児童自身が学習を進める「個別最適な学び」と多様な他者と交流する「協働的な学び」をとおして必要な資質や能力を育成する。
- 日々の授業でタブレットと電子黒板を日常的な学習ツールとして確立、対面とオンライン学習を併用し学びを保障する。
- 地域資源を活用した教育活動を通じ、身近な地域の魅力や課題を知り地域の一員としての意識を育ませる。

☆他者を大切にする

**自他を尊重し、助け合い認め合う集団作りをめざす。**

- 挨拶と言葉遣いをおし児童同士の関わりを促し、共生の楽しさと規範意識を育成する。
- 同学年・異学年によるボランティア活動や学校行事により、お互いの感性や考え方に触れ、リアルな関係づくりを育成し、質の高い自己実現を促す。
- 組織のないじめや不登校の未然防止・早期発見・早期対応をし、安心・安全な学校生活を確立させる。

学びを支えるチーム杉二

☆地域

**学校と地域(CS・学校支援本部・杉サポ他関係機関)で連携・分担し、児童を支援する。**

- 学校運営協議会を核とした地域と協働しながら、「今後の杉二小の教育」について共に考え、「できること」は連携と分担によって実現する。
- すべての児童の居場所・絆づくりとしての「学校」の立ち位置を確立していく。
- 「地域で児童を育てる」視点から児童の思いが生かされる幼・保・小・中連携の交流活動を推進する。
- 学区の立地を生かした活動を充実すると共に、「運動・外遊び」の場として、善福寺川緑地公園周辺の施設を利活用する。

☆学校

**学び続ける教師としての自覚をもち児童一人一人の主体的な学びを支援する。**

- 確固たる授業力を身に付けると共に、切磋琢磨する組織の中で教師力を向上する。
- チーム担任制として全ての教職員が児童の担任という意識で指導にあたる。
- 仕事の優先順位をつけ、ONとOFFのスイッチをもつ。
- 教育公務員としてサービスの厳正に努める。やってはいけないことはやらない。やるべきことはやる。
- 事故・事件・保護者対応は初期対応を最重視し、組織として迅速・的確に進める。

◎「子供まん中」の視点を大切に、学校運営協議会・学校支援本部・杉サポ・教育委員会等と連携し、「地域で育てる杉二の子」の言葉と共に、「地域の中の学校」の立ち位置を確立していきます。



以下 令和7年度の学校経営重点6項目です。



## 1 デジタルとリアルを融合した学習者中心の学びの保障

- 子ども一人一人の特性や興味関心に応じて子ども自身が進めていく学習活動を展開していきます。
- 多様な他者と協働した学びをとおして集中力・表現力を育成していきます。
- 日常の授業の中でタブレットと電子黒板を活用し、双方向を生かした児童主体の学習活動を展開してきます。
- 年間定期的に全学級においてオンライン授業もしくはオンライン学級活動を実施し、学びを止めない自立した学習者を育成していきます。

## 2 地域資源を活用した教育活動による地域の一員としての意識の向上

- 校庭整備期間、東田中学校テニスコート、善福寺川緑地公園野球場、センター広場に加え杉二小前広場等を運動・外遊びの場として活用し、健康保持に努めていきます。
- 第6学年において東田中学校との交流（図書館交流、合唱コンクールリハの見学 授業体験等）、全学年において近隣の幼稚園、保育園、子供園との交流をより深めていきます。
- 外部（地域）人材や資源を活用した体験授業を実施していきます。

## 3 挨拶と言葉遣いをとおした規範意識と他者と共生する意識の育成

- 登校時や全校朝会、学級活動をとおし、「時」と「場」に応じたあいさつ、相手を尊重する「さん」づけを徹底する共に、全教育活動をとおし発達段階に応じた温かな「言葉遣い」を指導していきます。

## 4 同学年・異学年によるボランティア活動や学校行事をとおした自己効力感の醸成

- ふれあいウィークを中心に兄弟学年及び同学年での活動を学校でのあらゆる場で意図的・計画的に設定し、社会を形成していく上で必要な力を身に付けていきます。
- 「杉二運動の日 音楽の日」では児童一人一人が自ら考えたり、思いや考えを表現したり、判断したり行動したりする主体的な活動から「その子らしさ」が発揮できる集団作りを目指します。
- 青少年赤十字活動による地域清掃活動や募金活動を行い、自己効力感を高め、他者への共感力を育成します。

## 5 組織のないじめや不登校の未然防止・早期発見・早期対応による安心・安全な学校生活の確立

- 特別支援教室巡回教員、専門員、SC、特別支援コーディネーターと連携を図り、発達の特性に応じたきめ細やかな指導の充実を図っていきます。
- 各学級・学年での「いじめ」を認知し、早期発見・早期解決に向けた教育相談体制を強化していきます。
- 不登校支援員の活用と共に学校施設内に場を設定し、児童の居場所を確保していきます。
- 生活指導夕会で情報共有し、児童の問題行動は早期発見、未然に防ぐ共に SC の効果的な活用や関係機関との連携を図りながら児童の安心・安全を第一に行動をしていきます。

## 6 連携と分担によって地域を活かしながら児童の成長を支える教育の具現化

- OHP（ホームページ）の充実や tetoru による週 1 回の配信、学校公開や学校行事の公開による日常の「杉二小の教育活動の視覚化」をめざしていきます。
- 学校運営協議会をよりよい学校づくりの会議として位置付け、地域コーディネーターのコーディネートする体験型学習や、杉サポボランティアの授業支援等地域と教職員との連携・協働体制を確立していきます。